

「現代日本の格差と貧困—2007年—」

2007年現在、日本経済は、製造業の好調な輸出を牽引力として景気拡大が続き、「平成長期不況」からほぼ脱却したように見えるが、景気回復の実感は乏しく、雇用の不安定さも増大する一方である。グローバルな金融市場の混乱も影を落としている。「改革の継続」を標榜した安倍内閣が退場し、「自立と共生」を掲げた福田政権が誕生したことによって、時代の潮目が変わったとも言えるが、現代日本社会における「格差と貧困」の問題は、決して解消したわけではない。

大阪市立大学経済学研究科では、経済格差問題のオピニオンリーダーである橋本俊詔氏、現代日本の貧困問題のエキスパートである岩田正美氏をお招きし、「現代日本の格差と貧困」に関する連続シンポジウムを開催する。広く関心のある皆様方の参加をお待ちしています。

シンポジウム1

「現代日本の経済格差」

日時・場所：2007年12月4日(火) 13:00～16:30

大阪市立大学学術情報総合センター10F大会議室

基調報告1：橋本俊詔(同志社大学)「格差社会の行方」

基調報告2：玉井金五(本学)「最低賃金・年金・生活保護」

論点提起：(重点研究担当者)中嶋哲也(経済理論)

大島真理夫(日本経済史) 長尾謙吉(経済地理学)

朴一(アジア経済論)

司会：森 誠(経済理論)

シンポジウム2

「現代日本の貧困」

日時・場所：2008年2月20日(水) 13:00～16:30

大阪市立大学学術情報総合センター10F大会議室

基調報告1：岩田正美(日本女子大学)「貧困基準の考え方と貧困の形態」

基調報告2：滋野由紀子(本学)「雇用形態の多様化と女性間格差」

論点提起：(重点研究担当者)海老塚明(経済理論)

松本淳(財政学) 佐藤隆広(経済開発論)

福原宏幸(労働経済論)

司会：脇村孝平(アジア経済史)